

## 第 13 回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成 26 年 3 月 18 日（火） 14：00－16：00
2. 場所：内閣府宇宙戦略室 大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
山川部会長、白坂部会長代理、仁藤委員、御正委員、薬師寺委員、渡邊委員
  - (2) 事務局  
西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

## 4. 議事要旨

## (1) 新型基幹ロケットの開発管理について

資料 1「新型基幹ロケット開発の進め方（案）」※について、審議を行った。審議の中で委員から以下のような意見があった。

※資料 1 は、昨年 5 月の「宇宙輸送システム部会の中間とりまとめ」、昨年 10 月の「新型基幹ロケット開発着手に当たり整理すべき事項に関する取りまとめ」の二つの文書における、新型基幹ロケットの記述を整理し、今後、踏まえるべき開発の進め方として、とりまとめるものである。

○新型基幹ロケットの開発において JAXA と民間事業者の間で意見が対立することも想定されるが、その場合、当事者同士の話し合いを基本としつつ、必要に応じて宇宙政策委員会でも議論を行い、方針を示すことも検討すべき。

審議の結果、資料 1 は部会長一任で文言等の事務的な修正を行い、次回の部会で再度審議することとなった。

その後、新型基幹ロケット開発におけるミッション要求等の設定について、文部科学省及び JAXA からヒアリングを行った。ヒアリングを受けて、新型基幹ロケット開発におけるミッション要求等の設定について、議論を行った。議論の中で委員から以下のような意見があった。

○国際競争力の確保の観点からは、打ち上げ回数の確保及び打ち上げサービスの受注に向けた強力な営業活動が必要。JAXA と民間事業者が連携するとともに、トップセールスを行う等我が国の総力を結集して取り組むべき。

○新型基幹ロケット開発は、2020 年頃の競合ロケットの動向を踏まえて実施する必要があり、所要の調査・検討を一層進めるべき。

○打ち上げサービスの利用者の観点からは、射場へのアクセスの利便性も重要。

新型基幹ロケット開発におけるミッション要求等の設定については、引き続き議論することとなった。

以上

## 第14回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成26年3月31日（月） 10:00-11:50

2. 場所：内閣府宇宙戦略室 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、仁藤委員、松尾委員、御正委員、渡邊委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙輸送システム長期ビジョンについて

白坂部会長代理から資料1、資料2、資料3に基づいて説明があった。説明を受けて、以下のようなやり取りがあった。

（資料1「宇宙輸送システム長期ビジョン素案」に関する意見募集の結果について  
資料2 宇宙輸送システム長期ビジョン（案）  
資料3 宇宙輸送システム長期ビジョン（案）の検討状況

○長期ビジョンに関する予算措置の議論があったが、今回はビジョンを明確に示すことが必要であり、予算については議論の範囲外としているとの説明があった。

審議の結果、「宇宙輸送システム長期ビジョン」は部会として決定し、宇宙政策委員会に報告することとされた。

(2) 新型基幹ロケットの開発及び打ち上げ輸送サービス事業の実施事業者の選定結果について

JAXAから資料4に基づいて説明があった。説明を受けて、委員から以下のような意見があった。

（資料4 JAXA提出資料（新型基幹ロケットの開発及び打ち上げ輸送サービス事業の実施事業者の選定結果について）

○キー技術として現在、液体ロケットエンジン、固体ロケットモーター、誘導・飛行安全ソフトウェア等を想定しているが、今後、技術が大きく進歩した場合には、キー技術の範囲を見直すこともあり得る。

○今後、民間事業者からミッション要求書に対する提案がJAXAへ出される予定である。具体的な提案が出された後、その結果を踏まえたミッション要求書について本部会で審議を行うことを想定している。

○新型基幹ロケットの開発において、ミッション要求等の100%達成を目指すことが前提であるが、万が一、ミッション要求等の全ての項目を達成できない可能性が出た場合には、その影響を十分に評価した上で本部会でも議論を行うことを想定している。

(3) 新型基幹ロケットの開発管理について

事務局から資料5、資料6に基づいて説明があった。説明を受けて、委員から以下のような意見があった。

〔 資料5 新型基幹ロケット開発の進め方（案）  
資料6 新型基幹ロケット開発のミッション要求等の設定に関する審議結果について（案） 〕

○総合システムを取りまとめる JAXA が民間事業者から詳細設計図面等の技術情報や会計情報等を必要に応じて参照できるような情報共有の仕組み作りが重要である。その際、企業秘密の保護にも留意することが必要である。

○開発過程で大きな不具合が発生したとき等、JAXA と民間事業者と一緒に現場で議論をして問題を効率的に解決していくために、必要に応じて民間事業者の事業所等の現場に JAXA の人員が張り付くことも行うべきである。

○新型基幹ロケットは、宇宙探査目的のミッション等の打ち上げに対応する必要があることにも留意すべきである。

審議の結果、「新型基幹ロケット開発の進め方」は部会として決定した。また「新型基幹ロケット開発のミッション要求等の設定に関する審議結果について」は本日の審議を踏まえ、文言の修正を部会長に一任して決定することとした。

以 上